

令和7年  
2025年

9月25日  
木曜日

第11800号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料（前納）  
年間 82,080円  
（税込み）  
6か月 42,120円  
（税込み）

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



食肉協会東海ブロック会議、「みかわ牛の中東輸出」講演……P5

- ▶ 日本食肉輸出入協会 上月敏也会長にきく一輸入先の多角化重要、国内外の関係団体との情報交換を積極的に……P2~3
- ▶ 乳用牛への黒毛和種交配状況、第2四半期全国で6・3ポイント増……P3
- ▶ 大阪府食肉公正取引協議会が講習会、大阪府から3講師招き研修……P4
- ▶ 大阪食肉市場の畜魂祭に関係者多数が出席、畜霊を吊う……P4
- ▶ 食肉協会東海ブロックが会議、「みかわ牛の中東輸出」テーマに講演聴講……P5
- ▶ [肉豚出荷予測] 10~12月は2・4%減、2月は1・9%減……P6

## 注目のヘッドライン

### 日本食肉輸出入協会 上月敏也会長にきく

日本食肉輸出入協会の新会長にこのほど就任した上月敏也氏に、就任の抱負や輸入食肉を取り巻く情勢、協会として注力する取り組みなどをきいた。

…詳細はP2~3

### 大阪府食肉公正取引協議会が講習会、大阪府から3講師招き研修

…詳細はP4

- ▶ ムルチバック・ジャパンが2025年秋ドイツハム・ソーセージ講習会を開催……P6~7
- ▶ ちくさんフードフェアを10月11~12日開催、福島牛の焼き肉なども提供……P7
- ▶ [資料] 乳用牛への黒毛和種の交配状況（速報）……P8
- ▶ と畜場名簿③……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 24日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 24日……P11



国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第50回  
**2026 食肉産業展**  
2026 Japan Meat Industry Fair 50th.

会期 ● **2026年3月10日(火) ⇒ 13日(金)**

会場 ● **東京ビッグサイト** 主催 ● 食肉産業展実行委員会  
後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか



半世紀の集大成を  
**未来へつなぐ**

**圧倒的開催規模!**

フード業界が最も注目する  
国内最大規模の総合見本市



同時開催

アジア最大級の食品・飲料総合展示会  
The 50th International Food and Beverage Exhibition  
**FOODEX JAPAN 2025**



## 日本食肉輸出入協会 上月敏也会長にきく 輸入先の多角化重要、国内外の関係団体との情報交換を積極的に

日本食肉輸出入協会の新会長にこのほど就任した上月敏也氏(写真)。同氏は大学卒業後、1998年に兼松(株)入社。翌年から畜産部に配属され、その後畜産第三課を経て、畜産第二課で長年輸入ビーフを担当してきた。2010年、兼松欧州会社(ロンドン・当時)に赴任し、その後兼松ドイツ会社で勤務。13年に帰国後は大阪勤務などを経て、主に輸入ポークの取り扱いに従事してきた。22年からは畜産第三部部長を務めている。現在51歳。就任の抱負や輸入食肉を取り巻く情勢、協会として注力する取り組みなどをきいた。

——まずは会長就任の抱負をおきかせください。

輸入食肉の調達環境は大変厳しい状況にあり、そうした中で会長就任は本当に重責だと感じている。会員企業の皆さまが安定的に食肉を輸入していくためには、良好な輸入環境の確保が求められる。同じ輸入業者として一致団結して、海外のサプライヤーと良好な関係を構築していく必要がある。当協会としては、これまでと同様にそのための活動を精力的に行っていきたい。特に国内外の関係機関からの関連情報の入手、そしてそれを迅速に会員の皆さまに提供していくことが重要だ。また、日本国内に拠点を持つ海外の食肉輸出団体や外国の政府機関などから要望があれば、会員との意見交換や情報交換の場を設定して、積極的に交流していきたいと考えている。食肉輸入企業の団体であることのメリットを十分に生かし、会員の皆さまの安定的な食肉の輸入に貢献していくことで、微力ではあるが、国民の食生活の向上に貢献していきたい。

——輸入食肉を取り巻く環境についてはどうみられていますか。

食肉の輸入環境は厳しい状況が続いている。振り返れば、コロナ禍があり、その最中にウクライナで紛争が起こり、22年頃から現地価格が高騰し始めた。さらに急激な円安基調になったことで、調達環境がますます不安定になってきた。

現地価格については、当初は飼料やエネルギー価格の高騰、さらに人件費や生産コスト上昇によるものだと思っていたが、最近は穀物価格がかなり落ち着い

ていても、食肉価格は高止まりしている。ということは生産状況、さらに米国などの主要な食肉生産国において国内の需要が高まっていることが影響していると考えられる。

また、アジア、特に中国や韓国と買い付ける製品が競合する場面も多く、残念ながら日本が買い負けするケースが少なくない。今後、そのほかのアジアの国々もさらに人口が増加し、経済成長して所得も増え、それに伴って食肉の需要も増加すると見込まれる。これからますます買い負けするケースが増えていくだろう。加えて円安によるインパクトも非常に大きく、今後も厳しい輸入環境は継続するとみている。

畜種別では、やはり牛肉への影響が一番大きい。北米での干ばつを発端に牛肉の生産量は減少しており、生産状況が回復するには数年単位の時間が必要だ。そのため、牛肉の調達先が限られてきている。

また、全ての畜種に共通するが、気候変動による自然災害などが多発し、そうした影響から入船スケジュールが乱れるなどの影響も出ている。さらに中東情勢が不安定であり、例えばスエズ運河の航行回避、紅海ルートから喜望峰ルートへの変更などもみられる。そのほか、トランプ米大統領による関税措置などを含め、不確定要素が非常に多く、それらの要素がどのような影響を与えるのか、リスク分析がますます難しくなっている。

また、疾病のリスクについても、しっかりと注視していかなければならない。今後も安定的に食肉の輸入を継続するためには、家畜・動物の衛生分野は非常に重要な事項だ。これについては例えば、産地国における地域主義(ゾーニング)なども必要な制度だと考えており、導入に向けて当協会としても関係機関への要望も行っていきたい。すでに鶏肉ではかなり導入が進んでおり、例えば、23年にブラジル・サンタカタリー



ナ州で鳥インフルエンザが発生した時もその影響は決して小さくはなかったものの、国全体の停止措置ではなかったため、他の地域からの輸入により、数量回復にそれほど時間はかからなかった。今年もブラジルでは鳥インフルエンザの発生がみられるが、日本市場への直接的な影響はほとんど感じられない。

——現在の国内マーケットの状況についてはどう分析されていますか。

マーケット全体としては少子高齢化が進んでおり、さらに実質賃金がなかなか上がらない中、最近では米価の高騰などもあり、日常的な消費者の節約志向は非常に強い。

一方、外食産業についてはコロナ禍で一度落ち込んでから、急激な回復をみせている。観光やインバウンド消費の拡大もあり、国内においても食肉の消費自体は今後も活発に推移していくことを期待している。さらに今年は特に国産鶏肉が高値で推移しており、国産豚肉についても猛暑の影響で記録的な高値となった。こうした状況下において、外食産業において輸入食肉を使用する頻度はさらに高まっている。

——協会として今後の課題や注力する取り組みについて教えてください。

食肉の安定的な供給に向けては、輸入先の多角化を進めていくことが必要だ。例えば、鶏肉は以前からそうだが、牛肉、豚肉に関しても今後は南米からの調達が重要になってくると考えている。近年、豚肉ではブラジル産の輸入量が大きく伸びているが、日本向けに輸出可能な地域は、まだサンタカタリーナ州だけであり、今後輸入可能な地域が拡大していけば、安定的な数量、価格の実現という意味では非常に魅力的といえる。

牛肉についてはすでにウルグアイやアルゼンチンなどからの輸入が行われているが、将来的にブラジル産牛肉の輸入解禁が実現すれば、業界に大きなインパクトを与える可能性がある。今年、ブラジルの牛肉団

体が来日した際には当協会との意見交換会の要望があり、会員も多数参加して非常に有益な機会を得ることができた。輸出事業者からしてみれば、最初から個別に各輸入事業者と接触していくよりも、事業者の団体と情報交換した方が効率的なのは間違いない。そういった観点から当協会のような存在は輸出事業者や団体にとって重要な組織だと思われるので、今後もそういった申し入れには積極的に対応していきたい。

一方、鶏肉については逆に以前からブラジルからの輸入量が多くを占めているが、鳥インフルエンザなどの疾病のリスク等も勘案すると、タイからの輸入量増加やさらにトルコなどの比較的新しく、日本市場への輸出拡大意欲が高い国に注目していきたい。実際に現地の輸出機構などからも日本の業界関係者との情報交換・意見交換を望む声はいただいている。いずれにせよ、価格的なメリットや疾病などのリスクヘッジ等、今後も安定的に輸入食肉を供給していくためには、さまざまな選択肢を持つ必要がある。

また、昨年、動畜産物輸出入検疫協会との共催で勉強会の取り組みを開始している。食肉の輸入に関係が深い二つの団体が相互で保有する知見の共有や意見交換を実施し、懇親会の開催も含めて交流を深めている。私自身も昨年の第1回に参加したが、非常に良い機会となった。昨年は動物検疫所から講師を招き、動物検疫の全体の概要について学ぶことができた。今年もそういった勉強会の開催を検討しており、こうした取り組みについては会員からのニーズがある限り、今後も継続して取り組んでいきたい。

さらに食肉の輸出も当協会の重要な活動の一つではあるが、2年前に日本畜産物輸出促進協会が発足したこともあり、今後輸出に関しては主に側面支援という形で関わっていきたいと考えている。当協会にも輸出促進協会の会員企業もいるので、うまく連携しながら情報収集、そして当協会の会員への展開を図っていきたい。

## 乳用牛への黒毛和種交配状況、第2四半期全国で6・3ポイント増

一般社日本家畜人工授精師協会が公表した令和7年第2四半期(4~6月期)の乳用牛への黒毛和種の交配割合は、全国で42・8%(前年同期比6・3ポイント増)、北海道で33・4%(7・7ポイント増)、都府県で

55・5%(4・9ポイント増)となった。また、性選別精液の割合は、全国で24・9%(0・7ポイント増)となっている。(8面参照)

## 大阪府食肉公正取引協議会が講習会、大阪府から3講師招き研修

大阪府食肉公正取引協議会(池田清昭会長)は18日、大阪市北区の大阪食肉会館で講習会を開催。大阪府健康医療部生活衛生室食の安全推進課食品表示グループの松木悦子表示指導総括主査が「食肉の表示について」、同グループの関本真由美主査が「加工食品における栄養成分表示について」、同監視指導グループの上田康太技師が「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理について」それぞれ講演した。

冒頭、池田会長は「まだ日中は暑さが残るが、予習、復習を兼ねて改めて表示や衛生管理についてしっかり学んでいただきたい。これを各支部に持ち帰って組合員の方々にも徹底を促してほしい」などとあいさつ。

松木講師は①生鮮食品と加工食品の区別②生鮮食品と加工食品の表示③間違いやすい表示例をテーマに話を進め、畜産物と加工食品の違いやショーケースで量り売りする場合とパック販売についての事例を紹介した他、誤りを起こしやすいポイントについて説明した。また、誤った場合の対処についても詳細に解説した。

関本講師は栄養成分表示の義務化について説明。表示項目や様式、栄養成分表示が省略できない場合を示した他、表示値の種類や表示された値の設定の根拠資料が必要なことを解説した。また、間違いを起こしやすいポイントも図解を用いて説明した。

上田講師はHACCPの考え方を取り入れた衛生管理について、HACCPが考案された経緯や基本的概



念、世界のHACCP対応状況を紹介。法令やそれに伴う必要な対応を説明した他、食中毒の発生事例を示しながら衛生管理のポイントを解説した。

質疑応答の後には、大阪府食肉生活衛生同業組合(池田清昭理事長)、同事業協同組合(同)の第4回理事支部長合同会を開催。合同会では厚生部、総務部、事業部、経理部から現況報告があった他、今後のスケジュールなどを確認した。池田理事長からは福祉共済制度への加入促進が改めて訴えかけられた。

また、北前孔一郎副理事長が大阪・南港市場の動向を説明。「和牛の動きは鈍く、交雑牛も少し下落。2等級や乳牛はほぼ上場がないが、相場自体は堅調に推移している。豚肉は常に高く、現状では部分肉を手当てした方がまだマシ。冬場に向けては下がるだろうが、京都や神戸に比べても出荷は圧倒的に少ない」とまとめた。最後に繁田文三副理事長が閉会の辞を述べ散会した。

## 大阪食肉市場の畜魂祭に関係者多数が出席、畜霊を弔う

大阪市食肉市場(株)(田中達夫社長)は23日、大阪市天王寺区の四天王寺本坊で畜魂祭を挙げる。市場職員および食肉関連事業者が多数参集し、昨年9月から今年8月までにと畜した4万6035頭(牛1万9377頭、豚2万6658頭)の畜霊の冥福を祈った。

残暑厳しい中、関係者多数が出席した畜魂祭は10時に開始され、入場した導師たちが初めに全員で読経。導師が焼香を済ませた後、再度、読経が続けられる中、祭主の田中社長の焼香に続いて関係者から順に焼香を行った。そのあと、祭主が参拝者に謝辞を述



べ、解散。各員は四天王寺境内に建立されている畜魂供養碑にも参拝し、哀悼の意をささげた。

## 食肉協会東海ブロックが会議、「みかわ牛の中東輸出」テーマに講演聴講

一般社団法人日本食肉協会東海ブロック会議豊橋大会が21日、名古屋市市中村区の若葉亭名古屋駅前店で開催された。会議では「食肉流通の課題とその対応～肉屋で人を幸せにする・これからの消費拡大のために～」をテーマに、各支部の現状報告を行った他、参加者がそれぞれ自己紹介。また、(有)下村畜産・(株)下村畜産食肉の下村知士社長を講師に迎え「みかわ牛の中東輸出」をテーマに講演を聴講した。

会議に先立ち、佐藤剛ブロック長(下写真)が出席者に謝辞を述べ、「ブロック会議の在り方については会場や参加費の見直しも含め、多くの方々が参加しやすい方法も検討していきたい。旧三水会は研さんを目的に活動してきたが、参加している他支部の方々と情報交換していただき、親睦を深めるためにも重要な機会だ」とあいさつした。

来賓紹介に続き、日本食肉協会の大久保守晃理事が「最近では全国の会議に出席するとメンバーがだいぶ変わってきた。本日は下村氏に輸出の話を行ってもらおうが、今後はブランド化を含めたこだわりが大切になってくると思う」と述べ、来年1月に視察を予定しているフランス・バスク地方の食肉事情やツアーの詳細について説明し参加を促した。

続いて愛知県食肉事業協同組合連合会の加藤功会長が「懐かしいメンバーもいるが、新しい会員も多く加わった。旧三水会とはなんぞや、ときかれることもあったが、研修・研さん・親睦が大きな三つの柱。設立からは70年ほどと生衛組合や事業組合よりも長い歴史を誇る。若い力で協力し流通業界に携わるわれわれの業界を盛り上げていただきたい」とあいさつ。

豊橋、名古屋、伊勢、岐阜の各支部が近況を報告した後、参加者が自己紹介。小憩の後、食肉協会の杉本達哉理事が下村講師を紹介し「私が最も尊敬する生産者の一人。大手が相次ぎ海外進出を行う中、個人で交渉し取引を進めてこられた。みかわ牛が世界に通用するブランドに成長するための契機となれば」と述べた。

下村講師は自身が3代目を務める下村牧場の紹介を行うとともに、輸出を志すきっかけとなったエピソードを披露。約4800頭を肥育し年間出荷頭数は2500



頭ほどで将来的には1万頭を目指す。名古屋市中心卸売市場南部市場をメインに出荷しており、数多くの受賞歴を有する。あふれるうまみ、軟らか食感、究極の口溶け、和牛香、歩留まりの良さを五つの特長としており、国内外からの需要が高い。



一貫生産を行うが、愛知県内に2カ所ある素牛市場は飛騨牛や松阪牛、近江牛などを肥育する生産者も集う中、みかわ牛を育てる下村畜産ではどうしても売価に差が出るため、「良い牛を買って高く売る」という考えに至り、自社ブランド「下村牛」として海外輸出を決意。シンガポール、マレーシア、インドネシア、ドバイに出荷実績を有し、ベトナム、タイ、フィリピン、カタール、サウジアラビアも視野に入れる。

中でもハラールビーフに特化することで新しい市場開拓することに注力しており、ハラールが求められる国々に対しては徳島県の(株)にし阿波ビーフを経由して輸出している。海外との交渉については市場分析を行い、需要の高さが見込める国を対象に拡販。書類や手続きの煩雑さはあるものの、やりがいや面白さを感じており、今後も挑戦を続けていきたいと語った。

会議終了後は懇親会が開かれ、豊橋支部の山田晴彦支部長のあいさつに続き、食肉協会の杉本理事が乾杯の音頭を取り懇親に。次回開催の岐阜支部の吉井充哉支部長があいさつした後、食肉協会の森大亮事業推進委員が中締めあいさつを行った。

**【肉豚出荷予測】 10～12月は2・4%減、2月は1・9%減**

農水省食肉鶏卵課は24日、8月から令和8年2月までの肉豚出荷予測を公表した。

8月は119万3千頭で前年を2・4%下回り、過去5年平均(平年)との比較では平年を下回る見通し。9月は

[肉豚出荷動向予測]

年・月	出荷・千頭	前年比%	1日あたり	価格
令和6年7	1,311	105.1	58,921	832
8	1,223	94.1	57,543	767
9	1,278	98.8	66,369	668
7～9月計	3,812	99.3	—	—
10	1,458	101.5	62,710	620
11	1,410	95.1	69,630	571
12	1,464	100.1	65,798	638
10～12月計	4,332	99.0	—	—
令和7年1	1,404	99.3	66,071	598
2	1,290	93.8	70,685	617
3	1,353	98.7	66,815	615
1～3月計	4,047	97.3	—	—
4	1,376	97.7	64,753	599
5	1,297	95.4	64,049	661
6	1,231	103.2	57,935	795
4～6月計	3,904	98.0	—	—
7	1,281	97.7	58,157	868
*8	1,193	97.6	52,642	—
*9	1,289	100.9	63,654	—
7～9月計	3,763	98.7	—	—
*10	1,477	101.3	66,382	—
*11	1,321	93.7	68,623	—
*12	1,428	97.5	61,419	—
10～12月計	4,226	97.6	—	—
令和8年*1	1,347	95.9	63,388	—
*2	1,266	98.1	63,388	—

\* 予想、単位：千頭、前年同月比%。\* 1日あたりは本紙試算、価格は東京市場・極上・上規格

128万9千頭(0・9%増)で平年を下回る見通し。7～9月は376万3千頭(1・3%減)で平年を下回る見通し。

10月は147万7千頭(1・3%増)で平年を上回る見通し。11月は132万1千頭(6・3%減)で平年を下回る見通し。12月は142万8千頭(2・5%減)で平年を下回る見通し。10～12月は422万6千頭(2・4%減)で平年を下回る見通し。1月は134万7千頭(4・1%減)で平年を下回る見通し。2月は126万6千頭(1・9%減)で平年を下回る見通しと予測している。

**ムルチバック・ジャパンが  
2025年秋ドイツハム・ソーセージ講習会を開催**

ムルチバック・ジャパン(株)(東京都中央区、大沼謙一郎社長)は17日、2025年秋ドイツハム・ソーセージ講習会を茨城県つくば市のつくば本社工場で開催した。定期的に催される同講習会では、ムルチバック・ジャパンの得意先を招いてハムやソーセージの製造方法などの講習を行っており、今年は講義やデモンストレーションを交えながらドイツサラミの作り方を披露した。

初めに、ドイツ食肉マイスターである同社の林聖二氏がドイツサラミソーセージとその理論について講義を行った。まず、ドイツのハム・ソーセージを、①ボイル



ハム②非加熱ハム③ボイルドソーセージ④クックドソーセージ⑤非加熱ソーセージの五つの分類に分け

て説明。その後レシピを紹介しながら、「カッター工程」「充填工程」「発酵熟成工程」と、各工程を詳細に解説した。また、非加熱サラミの製造工程で起きる「シワの発生」「発色不良、不明瞭な切断面」における原因なども例に挙げた。このほか、デモンストレーションでも使用されるザイデルマン社のカッター速度や種類、さらには、DLGコンテストについて、評価項目なども紹介した。

昼食時、「サラミ」「白カビサラミ」「ペッパーバイサー」「ランディエーガー」「オニオンメットブルスト」の5種類のドイツサラミソーセージが提供されたほか、工場

内で製造したパンなどが提供され、午後は、テスト室でこれら5種類のドイツサラミソーセージづくりのデモンストレーションが行われた。同社が取り扱う実機(ザイデルマン、ハントマン、熟成庫<エスペック>)を使いながらのデモンストレーションに、参加者は撮影やメモを取りながら意欲的に参加。林氏の説明に対し、さまざまな質問が寄せられた。

デモンストレーション後は、工場見学、取扱機器のプレゼンテーションが行われ、ザイデルマンやハントマンなど、各メーカーの加工機械が映像を交えて紹介された。

## ちくさんフードフェアを10月11～12日開催 福島牛の焼き肉なども提供

公益財団法人日本食肉流通センター(川崎市東扇島24)をメイン会場として10月11日、12日の両日、「ちくさんフードフェア2025」が開催される。

当日はセンターで営業している食肉卸や川崎商協が、精肉や食肉加工品を販売するほか、日本食肉消費総合センターや日本畜産副産物協会、日本ハム・ソーセージ工業協同組合など畜産関係6団体が出店し、パネル展示や試食提供等により食肉の消費拡大や知識の普及啓発を行う。また、地域物産展コーナーも設置され、食肉を中心に全国各地のバラエティ豊かな食品が楽しめるほか、家畜ふれあい牧場、JKC災害救助犬デモンストレーションなども行われる。

恒例の焼き肉コーナーでは、東扇島中公園内の特設会場において、来場者に対し福島牛(調理済みの焼き肉)を提供する。福島牛の「おいしさ」「食べる楽しさ」を再認識してもらうのが狙い。昨年、能登牛丸焼きコーナーには2日間で計2千人が来場。今年も牛肉(4～5等級の福島牛焼き肉用カタロース、バラ・モモ

系などミックス100kg)を用意し、2日間で2千食を提供する。実施時間は各日11時と14時の2回。各実施時間とも材料がなくなり次第終了する。その他、全肉連では2日間で4銘柄計200kg、県肉連では計80kgを来場者に提供する予定。

会場は無料の臨時駐車場が用意されており、川崎駅から随時会場直行無料バスも運行される。同時開催でジャパンミートピア2025inかながわと、第52回川崎みなと祭りも行われる予定。

【資料】乳用牛への黒毛和種の交配状況(速報)

令和7年9月22日  
(一社) 日本家畜人工授精師協会

延べ人工授精頭数に占める黒毛和種精液授精頭数の割合

(単位:頭、%、県)

人工授精時期	項目	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中四国	九州	(参考)		
										都府県平均	全国平均	既調査県数
令和2年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,023,462	40,623	76,107	16,359	6,192	19,090	20,908	29,751			
	うち黒毛和種授精	262,674	15,558	40,413	9,446	3,321	11,520	14,137	18,981			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(38.3)	(53.1)	(57.7)	(53.6)	(60.3)	(67.6)	(63.8)	(51.4)	(37.3)	46
令和3年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,011,877	37,891	73,267	15,879	5,754	17,860	20,734	27,549			
	うち黒毛和種授精	251,333	13,937	38,290	9,239	2,872	11,201	14,703	18,050			
	(黒毛和種の割合%)	(24.8)	(36.8)	(52.3)	(58.2)	(49.9)	(62.7)	(70.9)	(65.5)	(52.2)	(37.0)	46
令和4年 1~12月	延べ人工授精頭数	934,137	32,672	65,774	14,427	4,584	16,772	16,820	23,097			
	うち黒毛和種授精	276,605	13,702	37,468	8,357	2,515	11,299	11,832	15,792			
	(黒毛和種の割合%)	(29.6)	(41.9)	(57.0)	(57.9)	(54.9)	(67.4)	(70.3)	(68.4)	(55.6)	(41.1)	46
令和5年 1~12月	延べ人工授精頭数	919,482	30,653	58,863	18,850	3,759	15,040	15,748	19,928			
	うち黒毛和種授精	267,280	13,031	33,496	12,937	2,295	10,344	11,683	13,813			
	(黒毛和種の割合%)	(29.1)	(42.5)	(56.9)	(68.6)	(61.1)	(68.8)	(74.2)	(69.3)	(58.1)	(41.8)	46
令和6年 1~12月	延べ人工授精頭数	849,622	29,361	57,438	17,921	3,487	14,059	14,251	18,015			
	うち黒毛和種授精	231,670	11,666	30,039	12,067	2,054	9,599	10,463	11,691			
	(黒毛和種の割合%)	(27.3)	(39.7)	(52.3)	(67.3)	(58.9)	(68.3)	(73.4)	(64.9)	(52.9)	(38.4)	44
令和2年 4~6月	延べ人工授精頭数	249,001	9,972	19,311	4,167	1,579	4,797	4,824	7,040			
	うち黒毛和種授精	66,260	3,880	10,393	2,351	848	2,829	3,108	4,355			
	(黒毛和種の割合%)	(26.6)	(38.9)	(53.8)	(56.4)	(53.7)	(59.0)	(64.4)	(61.9)	(51.1)	(37.6)	46
令和2年 7~9月	延べ人工授精頭数	254,346	8,998	15,844	2,825	1,432	4,030	4,179	5,529			
	うち黒毛和種授精	65,263	3,506	8,622	1,750	810	2,681	2,760	3,675			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(39.0)	(54.4)	(61.9)	(56.6)	(66.5)	(66.0)	(66.5)	(53.2)	(38.0)	46
令和2年 10~12月	延べ人工授精頭数	269,910	10,573	20,400	4,635	1,476	5,300	5,810	8,843			
	うち黒毛和種授精	63,204	3,701	10,234	2,555	786	3,091	4,021	5,614			
	(黒毛和種の割合%)	(23.4)	(35.0)	(50.2)	(55.1)	(53.3)	(58.3)	(69.2)	(63.5)	(49.7)	(35.2)	46
令和3年 1~3月	延べ人工授精頭数	245,005	10,097	20,161	4,511	1,556	4,654	5,578	7,609			
	うち黒毛和種授精	58,997	3,594	10,136	2,625	770	2,760	3,864	4,883			
	(黒毛和種の割合%)	(24.1)	(35.6)	(50.3)	(58.2)	(49.5)	(59.3)	(69.3)	(64.2)	(50.6)	(35.9)	46
令和3年 4~6月	延べ人工授精頭数	250,078	9,223	18,578	3,753	1,607	4,440	5,143	7,032			
	うち黒毛和種授精	59,498	3,169	9,336	2,265	756	2,663	3,632	4,515			
	(黒毛和種の割合%)	(23.8)	(34.4)	(50.3)	(60.4)	(47.0)	(60.0)	(70.6)	(64.2)	(50.7)	(35.8)	46
令和3年 7~9月	延べ人工授精頭数	256,473	8,768	15,924	3,174	1,314	4,057	4,689	5,415			
	うち黒毛和種授精	64,336	3,400	8,692	1,921	724	2,750	3,410	3,774			
	(黒毛和種の割合%)	(25.1)	(38.8)	(54.6)	(60.5)	(55.1)	(67.8)	(72.7)	(69.7)	(54.8)	(38.3)	46
令和3年 10~12月	延べ人工授精頭数	260,321	9,803	18,604	4,441	1,277	4,709	5,324	7,493			
	うち黒毛和種授精	68,502	3,774	10,126	2,428	622	3,028	3,797	4,878			
	(黒毛和種の割合%)	(26.3)	(38.5)	(54.4)	(54.7)	(48.7)	(64.3)	(71.3)	(65.1)	(53.1)	(38.2)	46
令和4年 1~3月	延べ人工授精頭数	228,460	8,755	18,295	4,282	1,240	4,497	4,348	6,747			
	うち黒毛和種授精	65,810	3,531	10,023	2,454	633	2,877	2,808	4,404			
	(黒毛和種の割合%)	(28.8)	(40.3)	(54.8)	(57.3)	(51.0)	(64.0)	(64.6)	(65.3)	(53.0)	(39.5)	46
令和4年 4~6月	延べ人工授精頭数	233,056	7,985	16,238	3,716	1,224	4,190	4,490	5,629			
	うち黒毛和種授精	67,645	3,316	9,025	2,144	588	2,690	3,331	3,704			
	(黒毛和種の割合%)	(29.0)	(41.5)	(55.6)	(57.7)	(48.0)	(64.2)	(74.2)	(65.8)	(54.0)	(40.1)	46
令和4年 7~9月	延べ人工授精頭数	230,557	7,489	14,173	2,597	984	3,751	3,626	4,305			
	うち黒毛和種授精	70,220	3,222	8,487	1,508	559	2,676	2,704	3,157			
	(黒毛和種の割合%)	(30.5)	(43.0)	(59.9)	(58.1)	(56.8)	(71.3)	(74.6)	(73.3)	(59.1)	(43.1)	46
令和4年 10~12月	延べ人工授精頭数	242,064	8,443	17,068	3,832	1,136	4,334	4,356	6,416			
	うち黒毛和種授精	72,930	3,633	9,933	2,251	735	3,056	2,989	4,527			
	(黒毛和種の割合%)	(30.1)	(43.0)	(58.2)	(58.7)	(64.7)	(70.5)	(68.6)	(70.6)	(57.1)	(42.1)	46
令和5年 1~3月	延べ人工授精頭数	221,400	7,476	15,366	5,302	1,030	4,080	3,672	5,484			
	うち黒毛和種授精	67,708	3,291	9,034	3,605	613	2,789	2,572	3,808			
	(黒毛和種の割合%)	(30.6)	(44.0)	(58.8)	(68.0)	(59.5)	(68.4)	(70.0)	(69.4)	(58.8)	(43.0)	46
令和5年 4~6月	延べ人工授精頭数	222,995	7,597	14,250	4,673	976	3,684	4,032	4,876			
	うち黒毛和種授精	64,626	3,284	7,881	3,105	601	2,397	2,971	3,392			
	(黒毛和種の割合%)	(29.0)	(43.2)	(55.3)	(66.4)	(61.6)	(65.1)	(73.7)	(69.6)	(56.8)	(41.2)	45
令和5年 7~9月	延べ人工授精頭数	223,335	6,454	12,252	3,566	855	3,284	3,146	3,701			
	うち黒毛和種授精	65,544	2,836	7,252	2,584	557	2,476	2,466	2,672			
	(黒毛和種の割合%)	(29.3)	(43.9)	(59.2)	(72.5)	(65.1)	(75.4)	(78.4)	(72.2)	(60.8)	(43.1)	45
令和5年 10~12月	延べ人工授精頭数	251,752	9,126	16,995	5,309	898	3,992	4,898	5,867			
	うち黒毛和種授精	69,402	3,620	9,329	3,643	524	2,682	3,674	3,941			
	(黒毛和種の割合%)	(27.6)	(39.7)	(54.9)	(68.6)	(58.4)	(67.2)	(75.0)	(67.2)	(55.6)	(39.9)	45
令和6年 1~3月	延べ人工授精頭数	218,244	7,932	16,035	5,386	959	3,651	4,028	5,259			
	うち黒毛和種授精	58,199	3,194	8,523	3,463	516	2,411	3,087	3,458			
	(黒毛和種の割合%)	(26.7)	(40.3)	(53.2)	(64.3)	(53.8)	(66.0)	(76.6)	(65.8)	(53.8)	(38.4)	44
令和6年 4~6月	延べ人工授精頭数	213,228	7,294	14,201	4,498	808	3,391	3,086	4,370			
	うち黒毛和種授精	54,837	2,867	7,102	2,920	469	2,194	2,308	2,922			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(39.3)	(50.0)	(64.9)	(58.0)	(64.7)	(74.8)	(66.9)	(50.6)	(36.5)	44
令和6年 7~9月	延べ人工授精頭数	198,947	6,243	11,391	2,820	779	3,026	2,949	3,099			
	うち黒毛和種授精	56,285	2,549	6,230	2,021	516	2,299	2,116	2,090			
	(黒毛和種の割合%)	(28.3)	(40.8)	(54.7)	(71.7)	(66.2)	(76.0)	(71.8)	(67.4)	(54.9)	(39.8)	44
令和6年 10~12月	延べ人工授精頭数	219,203	7,892	15,811	5,217	941	3,991	4,188	5,287			
	うち黒毛和種授精	62,349	3,056	8,184	3,663	553	2,695	2,952	3,221			
	(黒毛和種の割合%)	(28.4)	(38.7)	(51.8)	(70.2)	(58.8)	(67.5)	(70.5)	(60.9)	(51.6)	(38.5)	44
令和7年 1~3月	延べ人工授精頭数	207,233	6,847	15,087	4,879	845	3,667	3,723	4,469			
	うち黒毛和種授精	65,849	2,959	8,406	3,286	438	2,598	2,897	2,988			
	(黒毛和種の割合%)	(31.8)	(43.2)	(55.7)	(67.3)	(51.8)	(70.8)	(77.8)	(66.9)	(55.6)	(42.0)	44
令和7年 4~6月 (中間集計)	延べ人工授精頭数	200,954	6,429	13,407	3,046	806	3,211	3,544	3,805			
	うち黒毛和種授精	67,061	2,876	7,205	1,999	439	2,210	2,687	2,666			
	(黒毛和種の割合%)	(33.4)	(44.7)	(53.7)	(65.6)	(54.5)	(68.8)	(75.8)	(70.1)	(55.5)	(42.8)	44

(注) 都府県平均及び全国平均は、都道府県毎の黒毛和種授精牛の割合(%)を、各年2月1日時点の成畜飼養頭数により加重平均したものであり、地域毎の数値の合計とは一致しません。

と畜場名簿③

と畜場名簿

(令和7年4月1日現在)

兵庫県	3	加古川食肉センター	一般	組合・その他	加古川市志方町志方町533	1985	11	125	0	500	
兵庫県	7	新宮食肉センター	一般	組合・その他	たつの市新宮町仙正34-1	2021	3	50	300	500	
兵庫県	11	但馬食肉センター	一般	会社	朝来市和田山町林垣268-1	2017	6	19	4	80	
兵庫県	15	淡路食肉センター	一般	市町村	鞆あわじ市小井441-6	1999	12	40	4	164	
神戸市	1	神戸市立食肉センター	一般	市町村	神戸市長田区列瀬通7丁目1番20号	1996	6	100	200	600	
神戸市	2	三田食肉センター	一般	会社	神戸市北區尾崎町志原1番	2000	12	25	0	100	
姫路市	1	和生マスター食肉センター	一般	会社	姫路市東瀬町1451番地5	2017	4	200			
西宮市	1	西宮市食肉センター	一般	市町村	西宮市西宮流2丁目32-1	1988	3	60	200	490	
奈良県	1	奈良食肉センター	一般	組合・その他	大和郡山市丹後庄町475-1	1990	12	50	170	370	
和歌山県	5	新宮市食肉処理場	一般	市町村	新宮市新宮8002-57.58	1974	4	17	61		
鳥取県	6	株式会社 鳥取県食肉センター	一般	会社	鳥取県西伯郡大山町小竹1291-1	1983	12	60	550	790	
鳥取県	2	株式会社 鳥取県食肉公社と畜場	一般	会社	鳥取県大山町朝山町山1677-2	1981	11	50	753	753	
鳥取県	3	西日本農業研究センター大田研究拠点(食肉生産研究施設)	一般	国・都道府県	鳥取県大田町市川合町永60	2001	6	8			休止中
岡山県	2	津山市食肉処理センター	一般	市町村	津山市国分寺9-1	1978	12	47	50	238	
岡山県	1	岡山県営と畜場	一般	国・都道府県	岡山市中区笠橋1-2-43	2002	3	70	350		
広島市	1	広島市食肉センター	一般	市町村	広島県福山市御幸町大字中原1685番地1	1992	4	160	720	1200	
福山市	1	福山市食肉センター	一般	市町村	山口県福山市高東町用田10353番地3	1967	6	50	50	50	
山口県	2	高東食肉センター	一般	市町村	山口県防府市大字大崎4番地2	2014	4	30		120	
山口県	6	防府市と畜場	一般	市町村	山口県防府市大字大崎4番地2	1962	8	35	77	217	
徳島県	1	徳島市立食肉センター	一般	市町村	徳島市不動本町三丁目1724番地の2	1986	12	150	400	1000	
徳島県	2	J.A.エヒメアイバックス株式会社徳島工場付設と畜場	一般	会社	徳島県名護郡石井町高川原838-1	1974	10		916	916	
徳島県	3	J.A.エヒメアイバックス株式会社徳島工場付設と畜場	一般	会社	徳島県鳴門市撫養町南浜大工野51番地の1	2016	3		250	250	
徳島県	5	株式会社にし阿波ビーフ	一般	会社	徳島県三好郡美よし町足代900番地3	2016	3	35		140	
香川県	2	株式会社 香川県畜産公社	一般	会社	坂出市昭和町二丁目1-9	1986	7	50	600	800	
香川県	5	香川県農業協同組合東讃畜産振興センター大川畜産センター	一般	組合・その他	さきま市長原西1881	2000	4		600	600	
高松市	1	高松市食肉センター	一般	市町村	高松市鍛冶町587番地197	1999	10	52		208	
愛媛県	18	J.A.エヒメアイバックス株式会社と畜場	一般	会社	愛媛県大洲市善賀甲410番地	1980	1			960	際換算頭数960頭
高知県	2	四万十市営食肉センター	一般	市町村	四万十市穴穂出来島2058-1	1967	12	20	420	480	
高知県	1	1ミニプロころち	一般	会社	高知市海老ノ利13-58	2023	4	55	5		
福岡県	3	県営食肉センター	一般	組合・その他	小郡市光行1152	1992	10	40		160	牛及び馬(1歳未満を含む)40頭が許可頭数 とく・こまの最大処理数40頭のため大動物のみでの換算
福岡県	6	九州協同食肉株式会社	一般	会社	太宰府市藤原橋南5-15-1	1983	9	94	300	688	養畜係3頭処理能力有
福岡県	1	福岡市中央卸売市場食肉市場(生産施設)	一般	市町村	福岡市東区東浜2丁目85番地14	2000	4	120	600	1080	
北九州市	1	北九州市立食肉センター	一般	市町村	北九州市小倉北区末広二丁目9番7号	1988	7	100	600	1000	
佐賀県	7	太良食肉センター	一般	組合・その他	佐賀県藤津郡太良町大字多良1849番地4	1971	7	0	200	200	
佐賀県	9	佐賀県高性能食肉センター「KAKEHASHI・かひはし」	一般	組合・その他	佐賀県多久市青多久町大字下多久4127番地	2022	9	50	850	1050	
長崎県	3	日本フードパッカー株式会社 諫早工場と畜場	一般	会社	長崎県諫早市幸町79-35	1998	4	50	780	930	換算頭数は従前、大動物は豚3頭で算定許可
長崎県	6	日本フードパッカー株式会社 川棚工場と畜場	一般	会社	長崎県東彼杵郡川棚町百津郷39番地	1996	4	0	990	990	
長崎県	5	五島食肉センター	一般	市町村	五島市吉久木町938番地	2014	7	12	114	150	換算頭数は従前、大動物は豚3頭で算定許可
長崎県	7	島原半島地域食肉センター	一般	組合・その他	雲仙市国田町多比良甲44番地、甲123番地	2013	4	10	500	530	換算頭数は従前、大動物は豚3頭で算定許可
佐世保市	1	佐世保市と畜場	一般	市町村	佐世保市千石町3番地42	2002	4	60	560	800	
熊本県	8	株式会社熊本畜産流通センター	一般	会社	熊本県菊池市七坂町林原9番地	2011	2	150	1000	1600	牛150頭
熊本県	5	株式会社熊本中央食肉センター	一般	会社	熊本県宇城市豊野町林原548	2016	2	114		456	牛85頭、馬29頭
熊本県	11	全国飼料産業協同組合会入吉食肉センター	一般	組合・その他	球磨郡錦町大字木下百2180番地1	2023	9	58		232	牛58頭
熊本県	15	千歳ファーム食肉センター	一般	会社	熊本県上益城郡御船町大字高木水田野2530番地	2018	7	21		84	馬21頭
大分県	17	(株)大分県畜産公社	一般	会社	大分県豊後大野市大野町田原1580番地29	2016	8	60	560	800	

資料：厚労省

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 9月24日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,335	2,945	2,121	-	-
		安値	2,161	2,118	2,044	-	-
		平均	2,608	2,310	2,084	1,729	-
	67頭	頭数	52	12	2	1	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	2,806	2,393	2,074	-	-
		安値	2,158	2,065	1,999	-	-
		平均	2,338	2,142	2,025	-	-
	123頭	頭数	83	34	6	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	1,952	-	-	-	-	
1頭	頭数	1	-	-	-	-	
乳牛	雌 B 1頭	平均	-	-	-	974	-
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	-
	去 B 1頭	平均	-	-	-	1,149	-
	去 C 1頭	平均	-	-	-	991	-
交雑牛	雌 B	平均	-	1,611	1,510	1,282	-
		頭数	-	4	8	6	-
	雌 C	平均	-	-	1,297	-	-
	1頭	頭数	-	-	1	-	-
	去 B	平均	1,891	1,770	1,572	1,397	-
頭数		1	10	7	2	-	
去 C	平均	-	-	1,377	-	-	
2頭	頭数	-	-	2	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜	422	1,020	-	(競り) (相対)	
売買	311	1,004	264.0	-	6 58

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,400	1,860	1,546	1,525	-
	B	-	-	1,429	1,413	-
和 去	A	2,268	2,220	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,049	1,015
	C	-	-	-	1,014	966
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,642	1,501	1,350	-
	C	-	-	1,443	1,323	-
交 去	B	1,900	1,712	1,572	1,397	-
	C	-	1,523	1,367	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	726	801	756	654	595
	安値	594	572	562	432	220
	平均	630	619	598	589	537
	頭数	( 8)	( 407)	( 347)	( 132)	( 110)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入相対	高値	-	-	-	-	572
安値	-	-	-	-	-	572
平均	-	-	-	-	-	572
頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)	( 6)

[大阪食肉卸売市場] 9月24日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ]は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,291	2,052	1,891	-	-
(頭数)	( 6)	( 6)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( 1)	( 1)
和 去 A	2,356	1,973	1,906	-	-
(頭数)	( 15)	( 10)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( 1)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,590	1,389	-
C	-	-	1,487	-	-
交雑去 B	-	1,816	1,548	1,387	-
C	-	1,512	1,640	1,319	-
豚	-	767	1,140	939	384

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	9月24日	9月22日	(9月累計)
豚	70,500	60,600	1,005,400
成牛計	4,590	4,550	70,610
和牛雌	1,340	980	17,260
和牛去勢	1,220	1,280	18,240
乳牛雌	710	470	11,430
乳牛去勢	520	540	7,090
交雑雌	370	460	7,850
交雑去	410	790	8,550

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 9月24日

東京	1,496円	(前日 1,447円)
大阪	1,508円	(前日 1,508円)

[豚・全農建値] 9月24日

上	中	取引頭数	市況
610円	590円	1,199頭	反発

と畜	牛 85頭	豚 65頭	牛概況 弱もちあい
売買	牛 76頭	豚 30頭	豚概況 急落

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 9月24日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	670 (670)	- (-)	6,377	-	もちあい
仙台 [中]	569 (583)	530 (557)	449	35	続落
栃木 [地]	597 (572)	562 (458)	1,870	60	反発
茨城 [地]	604 (606)	569 (577)	1,338	747	もちあい
群馬 [地]	577 (587)	488 (492)	2,471	432	続落
さいたま [中]	602 (598)	586 (582)	311	322	強もちあい
東京 [中]	619 (596)	598 (584)	1,020	1,004	急伸
横浜 [中]	610 (614)	586 (576)	630	643	もちあい
山梨 [地]	736 (-)	696 (-)	177	123	もちあい
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	684 (692)	603 (631)	973	224	続落
京都 [中]	- (713)	- (706)	-	-	休市
大阪 [中]	767 (791)	1,140 (762)	65	22	急落
神戸 [中]	809 (-)	762 (-)	129	128	-
岡山 [地]	742 (689)	714 (665)	361	382	暴騰
広島 [中]	691 (656)	655 (617)	255	123	急騰
福岡 [中]	657 (678)	613 (627)	502	215	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。栃木、茨城、群馬の前日は23日。

[日本食肉流通センター] 9月17日～9月23日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,438,521 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,285	1,381	1,442	1,371	65,190
うで	796	852	896	845	106,777
ロース	1,166	1,361	1,400	1,314	147,789
ばら	1,264	1,350	1,447	1,356	144,778
もも	788	848	877	835	161,026
ヒレ	1,080	1,326	1,351	1,308	12,750
セット	1,053	1,119	1,146	1,115	800,211

◇近畿圏 総重量 673,760 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,393	1,453	1,497	1,445	54,343
うで	740	820	896	821	110,939
ロース	1,190	1,296	1,375	1,293	86,648
ばら	1,359	1,387	1,426	1,391	118,150
もも	769	799	864	809	154,778
ヒレ	1,293	1,399	1,512	1,379	10,468
セット	1,034	1,130	1,205	1,103	138,434

[食鳥正肉日経相場] 9月22日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	674	749	954	190
ムネ	522	568	726	161

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	673	774	1,030	3
ムネ	495	535	630	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 9月22日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均					

22日分は26日掲載

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

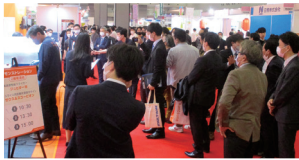
## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男著  
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

### ■〜食肉のプロフェッショナルを育てる〜シリーズ

### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版

### 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995